



会長就任あいさつ



ひろし
森山 裕

Hiroshi Moriyama

このたび、公益社団法人日本軽種馬協会の会長に就任いたしました森山裕でございます。

まずは、会長に就任するにあたり、20年以上の長きにわたり、深い情熱と卓越したリーダーシップをもって当協会の舵取りを荷い、わが国の軽種馬産業の発展に一身を捧げられてきた故・河野洋平前会長に対し、会員の皆さまとともに謹んで哀悼の意を表したいと思います。

河野会長が就任された2004年当時は、中央競馬・地方競馬の売上が減少を続けるさなかであり、サラブレッドの1歳せり市場の売却率は30%を下回るといふ軽種馬産業にとっては大変な苦難の時代でございました。そのような厳しい状況下にありながらも、山中会長の急逝により会長のバトンを引き継ぎ、日本の軽種馬産業を現在の隆盛の時代までに導いたご功績は、その間の会員をはじめとした生産者の皆さまのご努力とともに将に賞賛に値するものであります。さらに、その在任期間中には、協会の創立50周年および70周年記念式典とともに2度にわたる国際生産者連盟会議をホスト国として開催されました。このことは、当協会の発展と国際的地位の向上に寄与しただけでなく、わが国の競馬産業と軽種馬生産界の力を国内外に示すものとなりました。私は、そのご功績と河野前会長の軽種馬生産にかける思いをしっかりと引き継ぎ、今後の協会運営に全力を尽くす所存であります。

いまさら言うまでもなく、日本の軽種馬生産は、生産者の皆さまの長年にわたる不断的な努力が実を結び、世界的にも高い評価を得るまでに至っております。近年では、内国産馬の米国ブリーダーズカップ・クラシック制覇という歴史的快挙をはじめ、ロンジン・ワールドベストレースホースランキングにおいて日本調教馬の掲載頭数が世界最多となるなど、日本の競走馬の活躍は目覚ましく、我が国の競走馬が世界最高水準に達していることは疑いようがありません。

また、競馬を取り巻く環境に目を向けますと、中央競馬、地方競馬ともに売上は堅調に推移しており、この安定した競馬の売上を背景に、軽種馬せり市場も順調に業績を伸ばし、活況を呈しているところでございます。

しかしながら、生産界とその現場は多くの課題にも直面しております。せり市場の好況に伴い生産頭数が増加しておりますが、国内需要には限りがあるため、生産過剰への懸念が表面化しつつあります。加えて、少子高齢化による後継者・担い手不足、気候変動に伴う夏季の暑熱対策、さらには引退競走馬のセカンドキャリアを支える体制整備をはじめとしたアニマルウエルフェアの問題など、対処すべき課題は少なくありません。当協会はこれまで、種馬事業、人材養成事業、生産育成助成、情報提供事業、生産地案内、国際交流事業などを通じ、わが国の軽種馬生産を支え、生産者の皆さまとともに世界に通用する強い馬づくりに取り組んでまいりましたが、今後も、生産者の皆さまとともに様々な課題に真摯に向き合い、必要な対策を講じてまいります。

農業同様、軽種馬の生産・育成は、一朝一夕に成果が出るものではありません。血統を紡ぎ、情熱を注ぎ、時間をかけて大輪の華を咲かせる、息の長い営みです。

このことを胆に銘じ、前任の河野会長をはじめ、諸先輩方が築き上げられた輝かしい伝統を継承しつつ、時代の変化に柔軟に対応し、日本の軽種馬産業のさらなる飛躍を目指して全力を尽くしてまいります。

会員の皆様、ならびに関係各機関の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻、そしてご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と、我が国の軽種馬産業のますますの発展を祈念いたしまして、私の就任の挨拶とさせていただきます。